

# リエゾン先遣隊の業務について

## 先遣隊（リエゾン）の業務

### <派遣先自治体との調整>

- ☐ **必要な支援の調整**（支援場所・業務内容・人数・期間など）
- ☐ 活動拠点・資器材等の確保

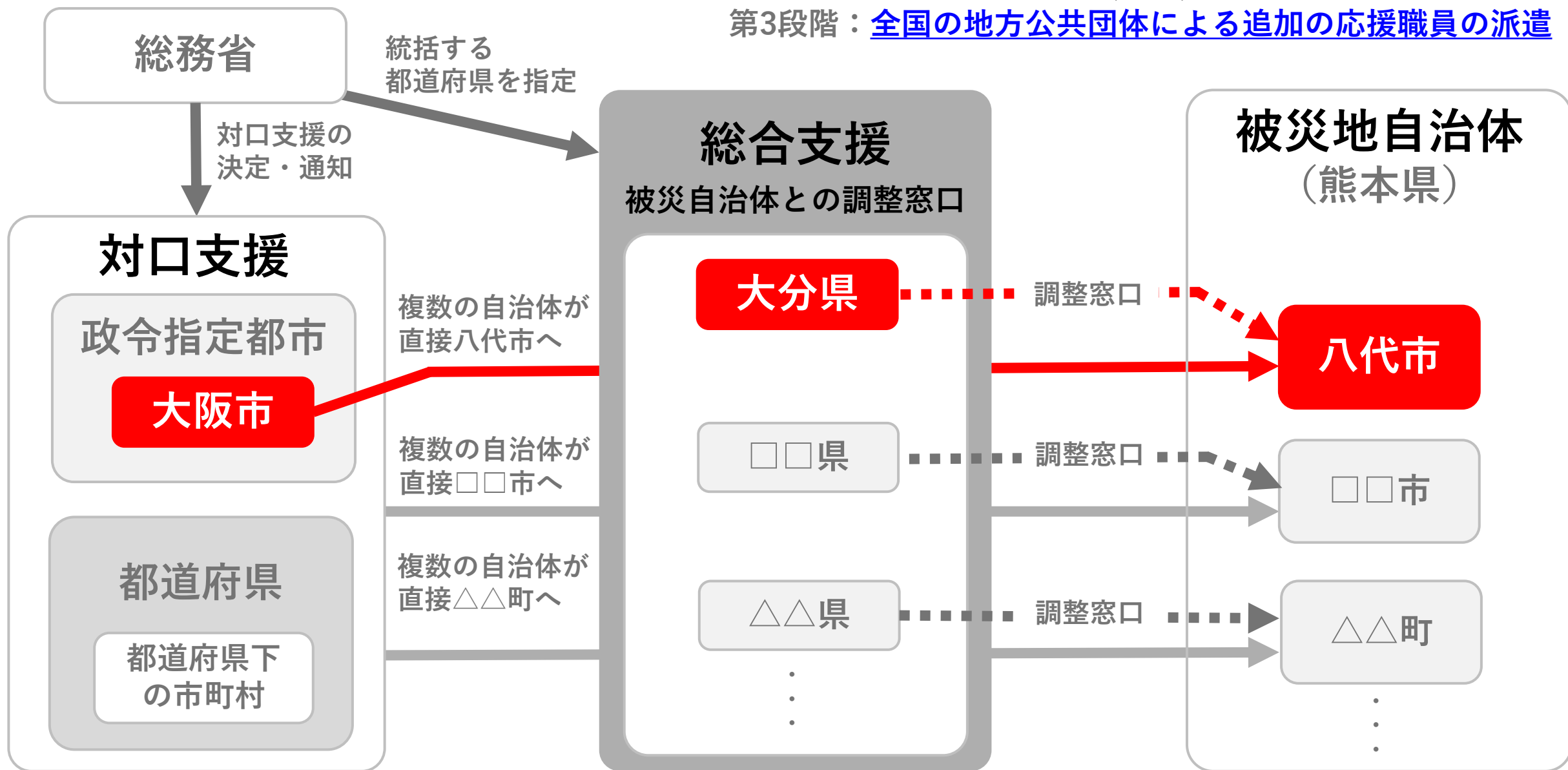
### <現地の情報収集／報告>

- ☐ **被害状況調査**（建物、道路、交通、ライフラインなど）
- ☐ 応援職員用の宿泊先や移動手段の確保
- ☐ 現地の状況確認（GS・飲食店・スーパーなどの営業状況確認など）
- ☐ **市災害対策本部会議の傍聴**
- ☐ **支援団体間の情報共有**
- ☐ 避難所（運営方法、風呂、トイレ、食事、パーティションなど）
- ☐ その他避難（車中泊、ペット避難、福祉避難所など）
- ☐ 民間からの支援状況（炊き出し、キッチンカー、災害ボランティアなど）
- ☐ **活動報告**



# 受援体制について

- 第1段階：被災した都道府県内の市町村による応援（熊本県）  
第2段階：被災地域ブロックを中心とした地方公共団体による  
応援職員の派遣（九州）  
第3段階：全国の地方公共団体による追加の応援職員の派遣



# 熊本市

イオンモール熊本の現状



自衛隊による仮設シャワー



避難所の様子



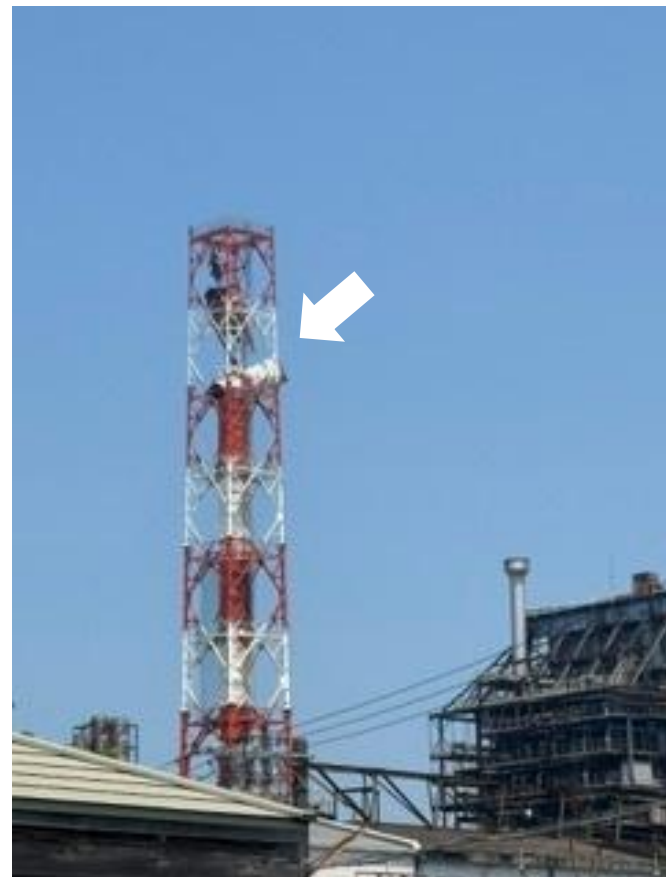
熊本市南区内での全壊家屋



避難所で提供された弁当



# 八代市



R8.8.1撮影

傾いていた1階部分が  
余震により倒壊



R8.8.27撮影

# 令和 8 年熊本地震における大阪市水道局の活動

水道局

- 水道局では、日本水道協会（日水協）の要請により、7/30から被災地に応援隊を派遣。
- 主に八代生活環境事務組合の管轄エリア（八代市・氷川町）で、給水活動、復旧活動に従事。

## 水道における 被害状況

- 最大断水戸数（全体被害）：約108,100 戸( 4 県・15自治体)
- 最大断水戸数（事務組合）：約 10,500 戸 ➡8/28にすべての断水が解消

## 大阪市水道局 の活動

- 【給水活動】 日水協の給水車派遣要請(7/29)を受け実施
- 7/30 宇土市で活動➡8/6～ 八代生活環境事務組合（八代市・氷川町に給水）のエリアで活動
- 【復旧活動】 日水協の復旧活動支援要請(8/3)を受け実施
- 8/4～ 八代生活環境事務組合で活動(技術支援)

## 大阪市水道局 からの派遣

- 【職員】 5 次隊・延べ52名を派遣：  
現地本部員(日水協との調整)含む
- 【車両】 給水車 2（容量2,000リットル×2）  
資材運搬車 2、指揮車1

| 班    | 班員 | 延べ人数 | 期間        |
|------|----|------|-----------|
| 現地本部 | 2  | 10   | 7/30～8/31 |
| 給水活動 | 6  | 30   | 7/30～8/28 |
| 復旧活動 | 3  | 12   | 8/4～8/31  |
| 計    | 11 | 52   |           |

## 給水活動

- 日水協関西支部長都市として管轄エリア内の給水車の総合調整
- 飲料水に加えて生活用水の需要へも対応：WOTA（シャワー設備）への給水等



給水活動（千丁コミュニティセンター）



WOTAへの給水（千丁コミュニティセンター）

## 復旧活動

- 被害状況を踏まえた復旧計画の策定・実施に関する技術支援を実施



復旧計画打合せ



現地での確認

## 課題等

- 活動環境の考慮 ➡ 酷暑の中での活動となった。要員の体調管理 等
- 推移する給水ニーズへの対応 ➡ 洗身用水への給水ニーズにも対応。保健部局との情報共有 等
- プッシュ型支援の事前想定 ➡ 応援隊の受け持ちエリアの事前想定 等

# 公衆衛生チームの活動

【令和8年8月7日(水)～8月31日(金) 八代保健所管内(八代保健所、氷川町健康センター)に全6隊、計30名を派遣】

公衆衛生チームは保健師2名、栄養士1名、事務職員1名、技能職員1名 計5名編成。各隊は現地で5日間の支援活動を実施。

## 保健師等(保健師・事務職・技能職員)の活動

支援内容 : ①避難所(3ヶ所約280名)における住民の健康管理・衛生管理等業務、支援チーム間の調整  
②在宅における要支援者等の健康管理(全戸訪問)、訪問記録の入力、支援チーム間のミーティング運営

1～4次隊:避難所における支援 (8/7～8/21)

4～6次隊:在宅における支援 (8/22～8/31)

避難所を巡回し、避難者の健康状態や生活環境を把握。感染症予防に関する啓発、健康相談、他の支援チームと連携した要配慮者への支援等を実施。



支援者間ミーティング

多数の支援者がいるため、毎日朝夕のミーティングで活動内容や課題を共有。



健康体操

避難所での運動不足を解消するため、リハ職と協力して実施。



要支援者の家庭訪問

8月中の全戸訪問終了を目標に、一日約40世帯を家庭訪問。困りごとを抱える住民を把握。記録はkintone(キントーン)に入力。

他の支援自治体と共に、訪問後の課題を共有し、在宅支援の方針を検討。今後、避難所から自宅に戻る方への支援、避難所との連携が必要となる。



今後の方針を検討

# 公衆衛生チームの活動

【令和8年8月7日(水)～8月31日(金) 八代保健所管内(八代保健所、氷川町健康センター)に全6隊、計30名を派遣】

## 栄養士の活動

前回震災時の教訓を踏まえ、熊本県が栄養士チームを設置。氷川町健康センターにおいて、氷川町栄養士、他都道府県派遣栄養士とともに、氷川町栄養士チームとして活動。

### ①氷川町栄養士支援

・氷川町の災害時栄養・食支援活動方針・通常業務再開にむけてロードマップを作成。  
・熊本県から依頼された栄養アセスメントを実施。

| 食事の状況          | 朝    | 昼          | 夕        |
|----------------|------|------------|----------|
| 福祉避難所・母子避難所    | 支援物資 | 炊き出し       | 炊き出し     |
| 一般避難所3か所→2か所   | 支援物資 | 弁当(地域の弁当屋) | 弁当(コンビニ) |
| 在宅避難者(8/25で終了) | —    | 弁当(地域の弁当屋) | 弁当(コンビニ) |



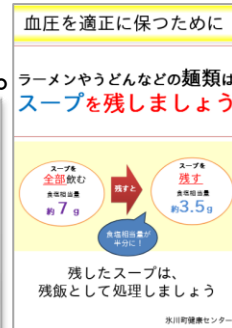
### ②避難所における食環境整備

#### 支援物資の配付調整や管理

栄養バランスが整う選択ができるよう物資の配置を工夫。



減塩の注意喚起等の啓発媒体を掲示。



便秘や咀嚼に問題がある方等の対応食品の配置と啓発。



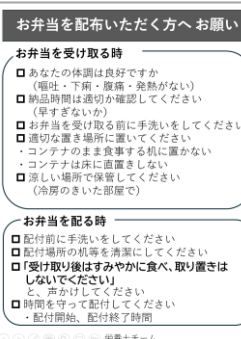
#### 弁当の内容

献立内容検討、弁当業者と調整。



#### お弁当・炊き出しの衛生管理

・避難所の管理者に対し、弁当の保管や廃棄、避難者への声かけ等指導。  
・炊き出し時の衛生管理について助言。



### ③避難所・在宅避難の要支援者への個別支援

保健師チーム、避難所常駐災害支援ナース等から情報をいただき、個別支援を実施。支援物資の選び方の提案や、栄養士会提供の特殊栄養食品等から選んで食品を配付した。



● 対口支援により、熊本市南区の避難所において支援活動を実施

熊本市の  
避難所開設状況

中央区8か所 75世帯 81人、東区9か所 36世帯 48人、西区4か所 23世帯 36人、  
南区17か所 169世帯 288人、北区4か所 20世帯 29人 合計42か所 323世帯 482人 ※8月6日時点

区役所職員の活動

第1クール避難所支援として、8月6日から11日の間、熊本市南区のアスパル富合（富合ホール）において、主に避難所の運営に従事。

具体的な活動

- ・弁当、水、支援物資等の配付
- ・施設内の衛生管理（清掃、ゴミの廃棄、消毒等）
- ・シャワー利用者への対応（受付、使用後の清掃）
- ・定期的な巡回
- ・その他（テントの設置、段ボールベッドの作成等）

| 役割              | 人数 | 派遣場所      | 期間          |
|-----------------|----|-----------|-------------|
| 第1クール<br>避難所支援  | 6  | 熊本市<br>南区 | 8月6日～8月12日  |
| 第2クール<br>避難所支援  | 6  | 熊本市<br>南区 | 8月12日～8月18日 |
| 第1クール<br>被害認定調査 | 6  | 八代市       | 8月18日～8月24日 |
| 第2クール<br>被害認定調査 | 6  | 八代市       | 8月24日～8月30日 |



# 八代市への応援業務（住家被害認定調査業務）について

○第1クールとして八代市へ被災家屋の罹災証明書交付のための調査に従事【8/19～8/24】 ※区職員6名

## 八代市における 被害状況

- 地震の被害は市西部の平野部・人口密集地に集中
- 1970年代以前建築の家屋が特に大きな被害を受けている状況
- 家屋損壊に加え断水等により避難所も継続して開設が続き、八代市職員は継続対応
- 罹災証明書発行にかかる一次調査の処理件数目標は約4000件を見込む（8/24現在）

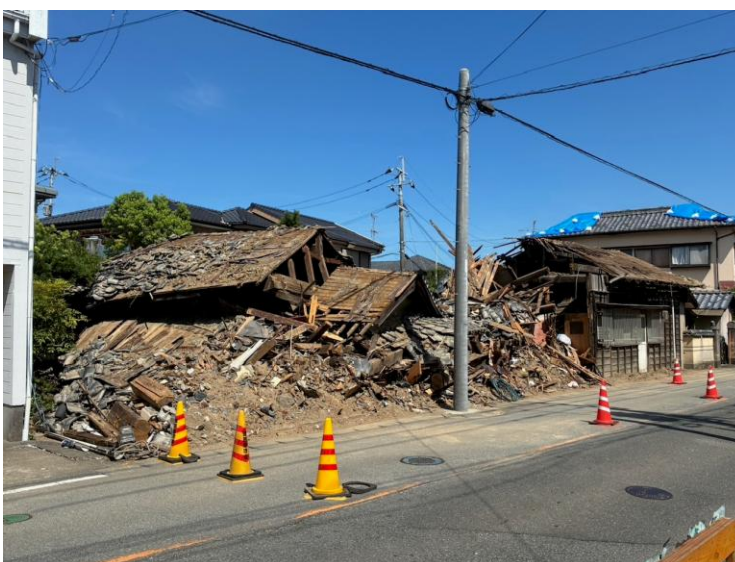
## 大阪市職員の 応援業務

- 他自治体職員と連携し罹災証明書発行において一番重要となる住家の一次調査に従事
- 調査は被害住家の外観から「全壊」の判断又は「傾斜・屋根・外壁・基礎の損傷程度」を調査
- 職員が2人一組となり、車で地域を回り、終日調査（1日あたり10件～15件程度）
- OJTとして他自治体の未経験者へ自治体間で研修実施（大阪市➡沖縄県・京都市など）

## 調査業務



●全体ミーティング（八代市役所庁舎内）



●市街地に点在する全壊家屋



●沖縄県職員への研修（別途実地でも研修）